

2022年度の業績と2023年度の見通し

社長 井上 治

住友電気工業株式会社

2023年5月25日

目次

1. 2022年度の業績

1. 業績サマリー
2. 営業利益の増減益要因（前期比）
3. セグメント別売上高・営業利益
4. 22Vision振り返り

2. 2023年度の見通し

1. 事業環境サマリー
2. 連結業績予想
3. 営業利益の増減益要因（前期比）
4. セグメント別売上高・営業利益
5. 23年度の主な取組み事項

3. セグメント別ROIC

4. 配当

5. トピック

1. 英国スコットランド
電力ケーブル工場設立
2. 「中期経営計画2025」

（ご参考スライド）

- ・ワイヤーハーネス受注量
- ・地域別セグメント別設備投資
- ・通期業績推移

1 - 1. 22年度業績サマリー

億円	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予想	2022年度 実績	前期比 増減率
売上高	29,186	33,679	40,000	40,056	+19%
営業利益	1,139	1,222	1,600	1,774	+45%
経常利益	1,141	1,382	1,630	1,733	+25%
親会社株主に帰属する 当期純利益	563	963	1,000	1,127	+17%
配当（円 / 株）	32	50	50	50	

米ドル：112円
ユーロ：131円
銅建値：1,136千円

米ドル：136円
ユーロ：141円
銅建値：1,209千円

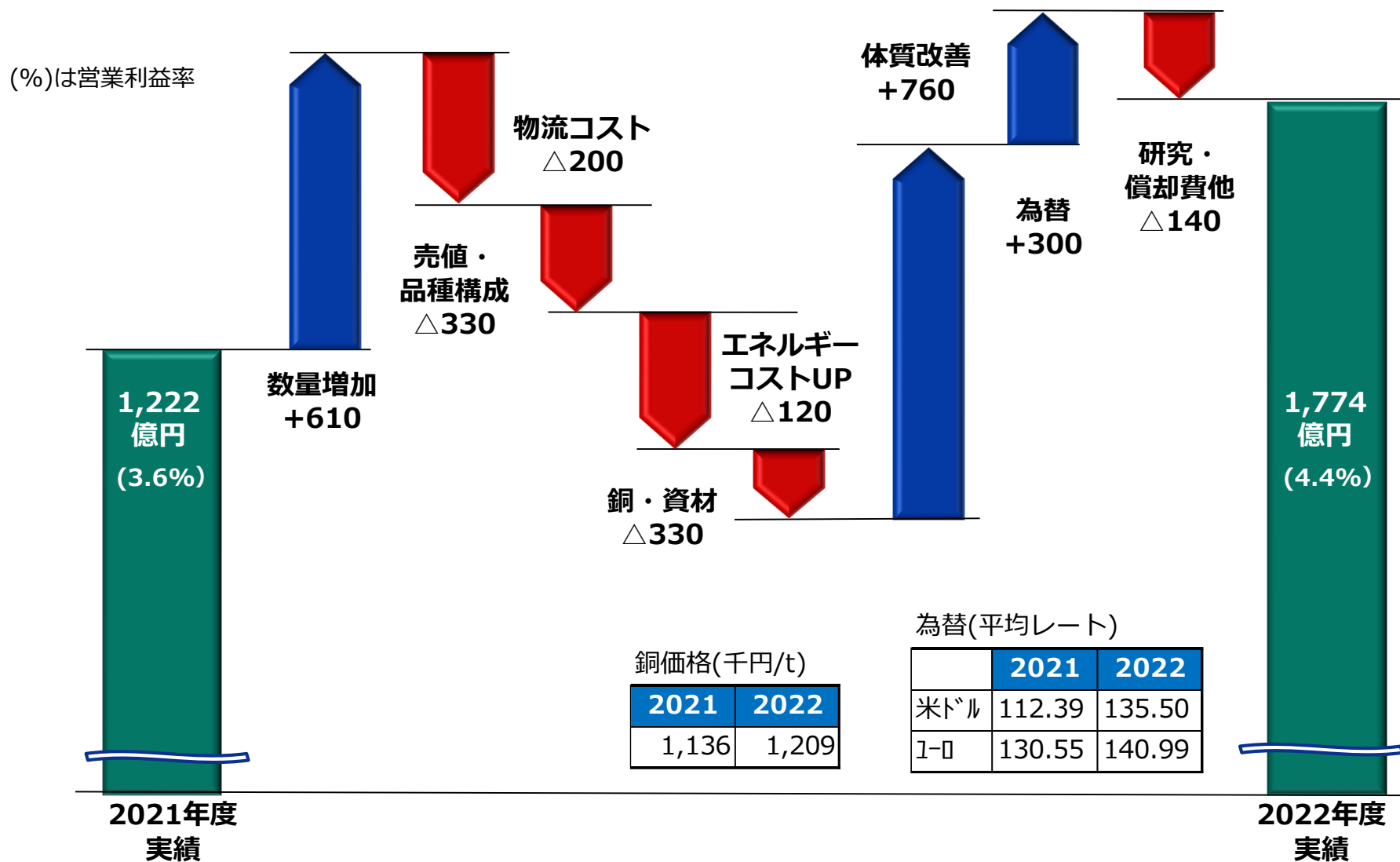
売上高は、ワイヤーハーネス、電力ケーブル、超硬工具などの拡販に努め、また、円安の影響もあり、**前期比19%増収、初めて4兆円に到達。**

利益面では、資材価格・エネルギー価格高騰の影響はあったが、徹底したコスト低減と売値改善に努め、**前期比増益。営業利益は過去最高益を更新。**

（従来の最高益は17年度 1,731億円）

配当は、中間配当と合わせて 50円/株（前期同額）

1 - 2. 営業利益の増減益要因（前期比）



1-3. セグメント別売上高・営業利益

(23年2月公表)

億円	2021年度実績		2022年度予想		2022年度実績		前期比		予想比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
環境エネルギー	8,334	440	9,400	360	9,282	379	+948	△61	△118	+19
情報通信	2,392	234	2,500	250	2,503	219	+112	△15	+3	△31
自動車	17,542	123	21,700	410	21,868	557	+4,327	+435	+168	+147
エレクトロニクス	2,925	198	3,700	350	3,660	383	+735	+185	△40	+33
産業素材他	3,279	230	3,700	230	3,633	240	+354	+10	△67	+10
合 計	33,679	1,222	40,000	1,600	40,056	1,774	+6,377	+552	+56	+174

環工ネ **電力ケーブル、日新電機需要好調。**銅価変動影響を除くと好調継続。
 情通 データセンター関連が、4/四以降、顧客の投資抑制と在庫調整により減速。
 自動車 自動車生産が徐々に回復し、**ワイヤーハーネス・防振ゴムの出荷が増加。**
 エレ **FPC、電子ワイヤーの増加**と生産性改善の取り組みにより増収増益。
 産素 **超硬工具の拡販に注力し、増収増益。**

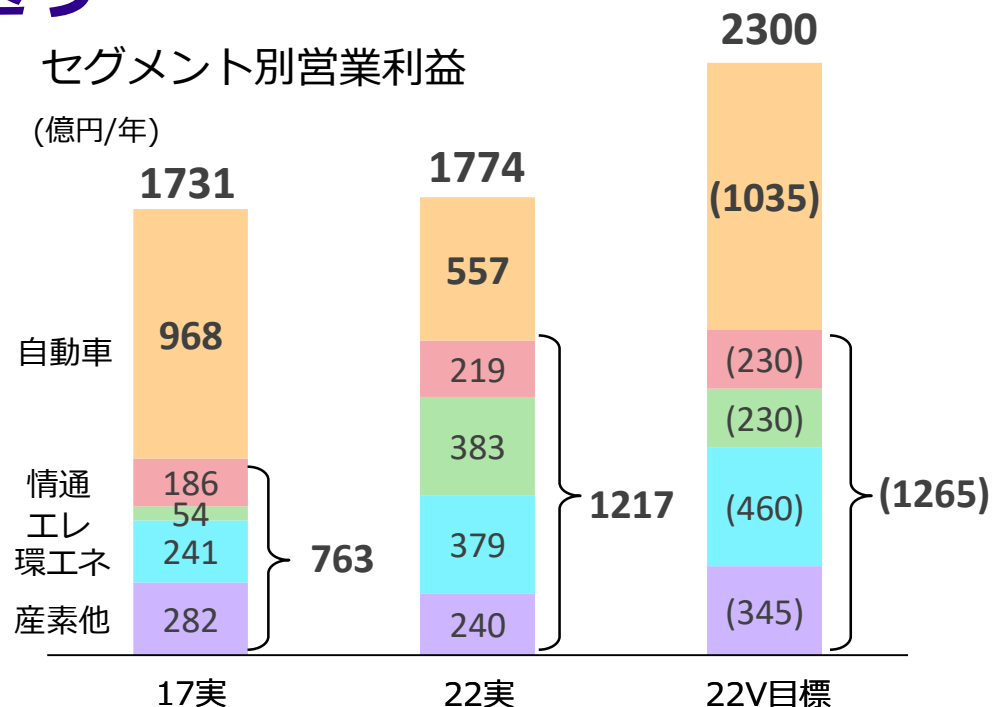
1 - 4. 22Vision 振り返り

22Vのセグメント別は2,300億円を
ありたいポートフォリオで按分

売上高・営業利益ともに過去最高を更新

セグメント別営業利益
(億円/年)

	17実	22実	22V
売上高(億円)	30,822	40,056	36,000
営業利益(億円)	1,731	1,774	2,300
営利ROIC	7.9%	5.9%	9 %以上
ROE	8.1%	6.1%	8 %以上



クルマと社会の大変革、再生可能エネルギーの普及、デジタル化の更なる進展など22Vで想定していた社会変革が加速。22V戦略に沿って当社事業は順調に成長。

自動車関連は、外部環境の急激な変化（Covid-19、半導体不足等による自動車減産、物流混乱・資材高騰）により苦戦したが、CASE対応、グローバル顧客への拡販などの取組みを着実に実行。

自動車事業の挽回と他事業の成長により、22年度に売上高と営業利益の過去最高更新。

サプライチェーン混乱で棚卸が増加し資本効率は未達となったが、更なる改善を図る。

2-1. 事業環境サマリー

- ✓ 政治的・地政学的リスクの更なる高まりや、世界的な物価上昇、各国での金融引締めによる景気下振れリスクが懸念され、事業環境は予断を許さない状況
- ✓ 自動車は、半導体不足は徐々に解消に向かうと見込まれ、挽回生産に向けた動きに期待
- ✓ エネルギーインフラ投資は引き続き堅調に推移する見通し
- ✓ 情報通信分野は、データ通信量増大の方向性は不変であるが、顧客の投資抑制・在庫調整により、一時的に調整局面へ。



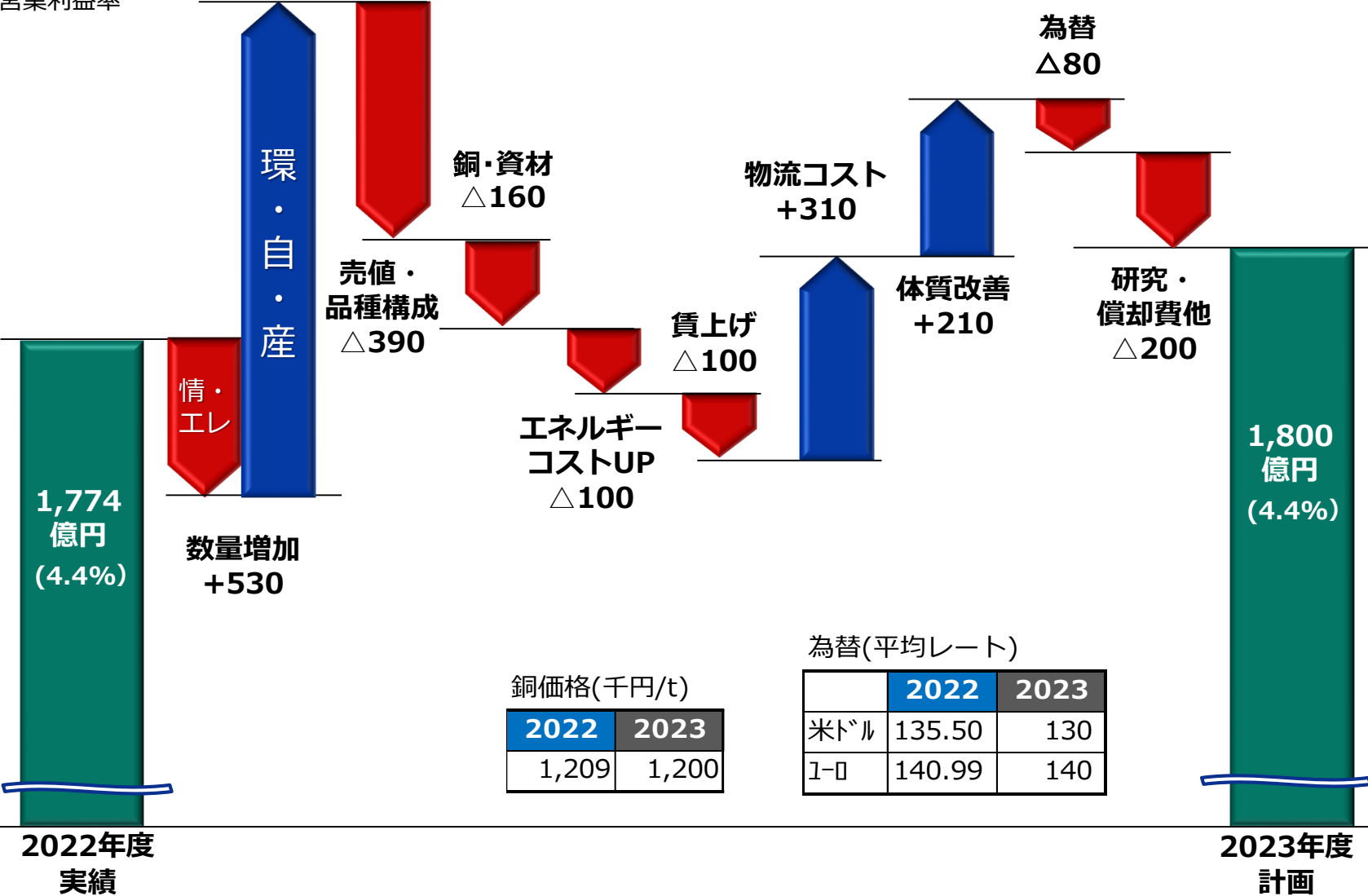
2023年度は、新中期経営計画の初年度として、まずは、売上高・営業利益の過去最高更新を狙う

2-2. 連結業績予想

	億円	2022年度	2023年度		前期比	2025年度
		実績	上期 予想	年間 予想	増減	新中計目標
売上高		40,056	19,500	41,000	+944	44,000
営業利益		1,774	500	1,800	+26	2,500
経常利益		1,733	440	1,700	△33	
親会社株主に帰属する 当期純利益		1,127	220	1,000	△127	
配当 (円/株)		50	25	50	0	
米ドル		136円		130円		
ユーロ		141円		140円		
銅建値		1,209千円		1,200千円		

2-3. 営業利益の増減益要因（前期比）

(%)は営業利益率



2-4. セグメント別売上高・営業利益

億円	2022年度 実績①		2023年度				前期比 ②-①		2025年度 新中計目標	
	売上高	営業利益	上期予想 売上高	営業利益	年間予想② 売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
環境エネルギー	9,282	379	4,500	80	9,600	380	+318	+1	10,200	500
情報通信	2,503	219	1,100	0	2,300	60	△203	△159	2,800	250
自動車	21,868	557	11,000	200	23,000	850	+1,132	+293	25,000	1,100
エレクトロニクス	3,660	383	1,600	110	3,400	220	△260	△163	3,600	300
産業素材他	3,633	240	1,800	110	3,700	290	+67	+50	3,900	350
合 計	40,056	1,774	19,500	500	41,000	1,800	+944	+26	44,000	2,500

環工ネ
情通
自動車
エレ
産素

電力ケーブル・電動車用平角巻線の需要増により好調維持。

データセンター関連製品の需要停滞が今期前半は継続。

ワイヤーハーネス受注増加と生産性改善によりコロナ前の利益水準目指す

FPCの減少や円高により減益予想も高水準維持。

自動車生産の回復に伴い超硬工具の受注が増加

2-5. 23年度の主な取り組み事項

全社

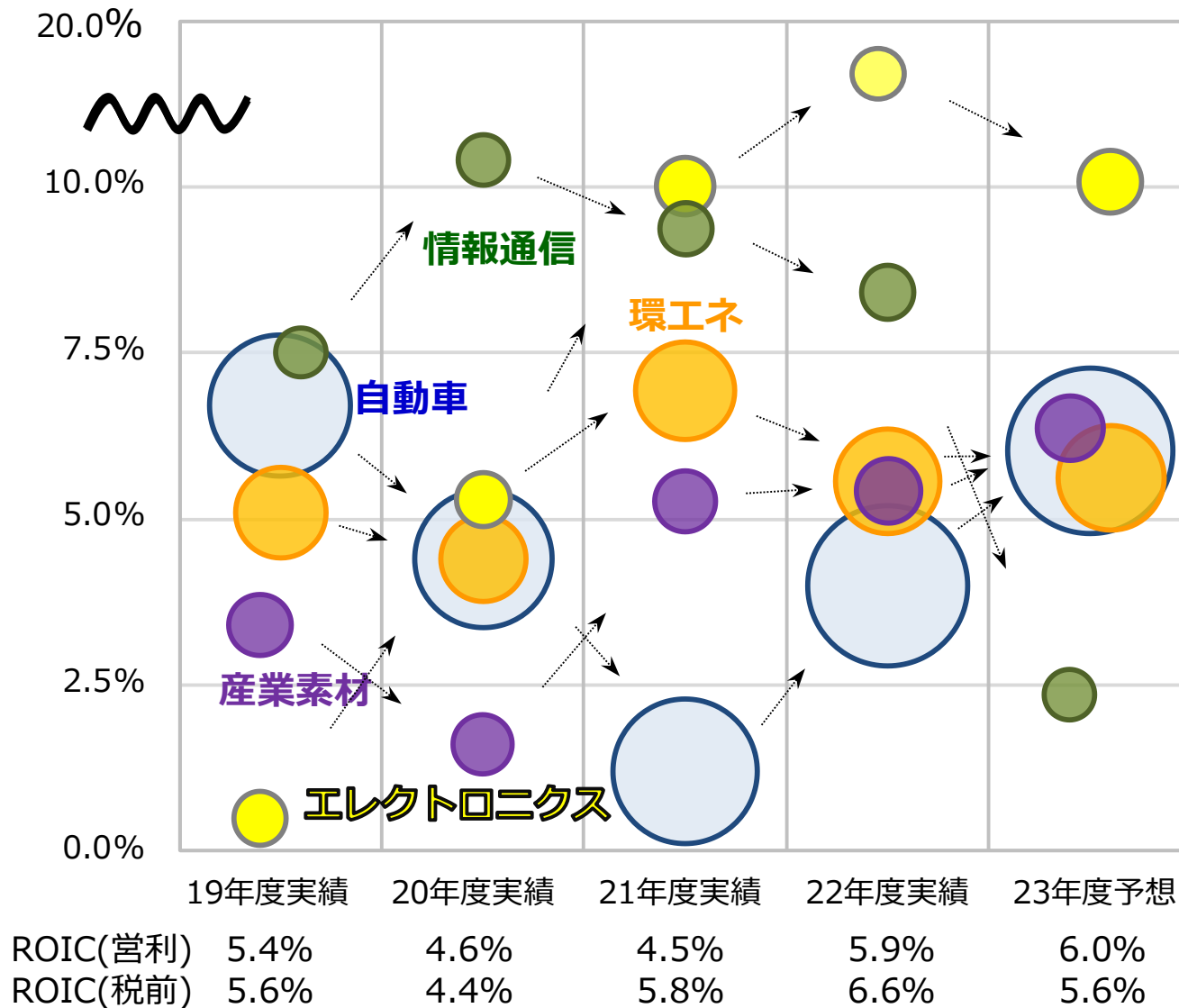
- 成長が見込まれる新市場・新製品への取り組みを加速。
- 資材・エネルギー価格高騰を踏まえた販売価格見直し、徹底したコスト削減を推進
- 設備投資の厳選実施、棚卸資産・営業債権圧縮など資本効率改善の取り組みを一層強化。

セグメント別

- | | |
|----------|---|
| 環境エネルギー | <ul style="list-style-type: none">✓ 電力ケーブルの再エネ案件(連系線、風力発電他)の受注拡大、生産能力増強、コスト低減、品質向上、新製品開発、プロジェクトマネジメント強化✓ 電動車向けモーター用平角巻線のコスト低減、次世代品開発 |
| 情報通信 | <ul style="list-style-type: none">✓ データセンター関連製品(ケーブル・コネクタ・デバイス他)の開発・拡販✓ 海底ケーブル用極低損失・大容量光ファイバの開発・拡販✓ 5G基地局用の高効率なGaNデバイス開発・拡販 |
| 自動車 | <ul style="list-style-type: none">✓ 事業体質の強化(コスト低減・資産効率向上)✓ 新設計・新工法の拡充など従来ハーネスの進化✓ 次世代自動車CASEの新製品創出・拡販 |
| エレクトロニクス | <ul style="list-style-type: none">✓ FPCの高機能品拡販、コスト低減、さらなる高機能化✓ FPCの車載・医療用途の拡販、高周波化に対応した新製品開発✓ EV電池端子用リード線(タブリード)・車載用電線の拡販 |
| 産業素材 | <ul style="list-style-type: none">✓ 超硬工具のグローバルな拡販と電動車・航空機・再エネなどの新規市場開拓✓ 焼結部品・PC鋼材・ばね用鋼線のコスト競争力・生産体制強化 |

3. セグメント別ROIC

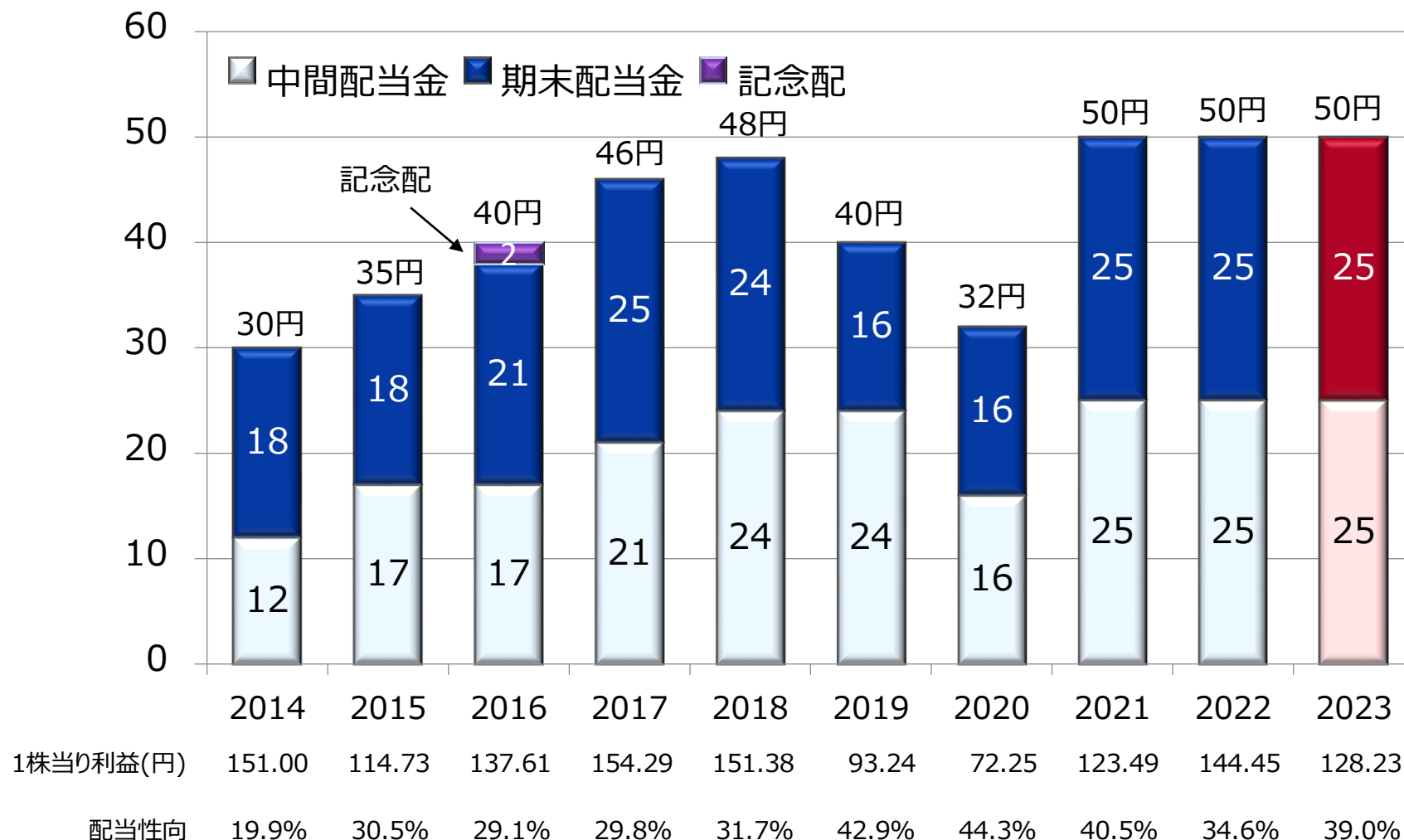
※図の面積は売上高に比例



4. 配当

2023年度の配当予想は1株あたり50円を予定。

(円/株)



5-1. 英国スコットランド 電力ケーブル工場設立

市場環境

脱炭素社会の実現に向けて、
再生可能エネルギー導入や
国家・地域間連系線建設が進む

→特に活況な欧州市場で、
電力ケーブルの需要拡大

ネットゼロ目標

英国	2050年
スコットランド	2045年

当社実績

HVDC(高圧直流ケーブル)

- ・電源開発 北海道本州間連系設備
250kV直流海底ケーブル(2012年完工)
- ・英-ベルギー(NEMOリンク)
400kV直流海底ケーブル(2019年完工)
- ・ドイツ Corridor A-Nordプロジェクト
500kV直流陸上ケーブル(2020年受注)
- ・英-アイルランド(Greenlink)
320kV直流海底送電システム(2021年受注) 他

洋上風力向け電力ケーブル

日本 秋田港・能代港洋上風力発電所他
海外 英国・ドイツ・台湾・韓国他

英国、スコットランドに電力ケーブルの製造・販売会社を設立

狙い 欧州市場向けの電力ケーブルを現地で製造、安定供給・長期保守対応を実現
エネルギーセキュリティを求める顧客のニーズにも応え、事業拡大を目指す

5-2. 「中期経営計画2025」

本日（2023年5月25日） 全体版公表



脱炭素社会の進展

情報化社会の進化

with/afterコロナ社会

国際社会の分断・不安定化

2022年度
(実績)

売上高 : 4.0兆円
営業利益 : 1,774億円
税引前ROIC : 6.6%

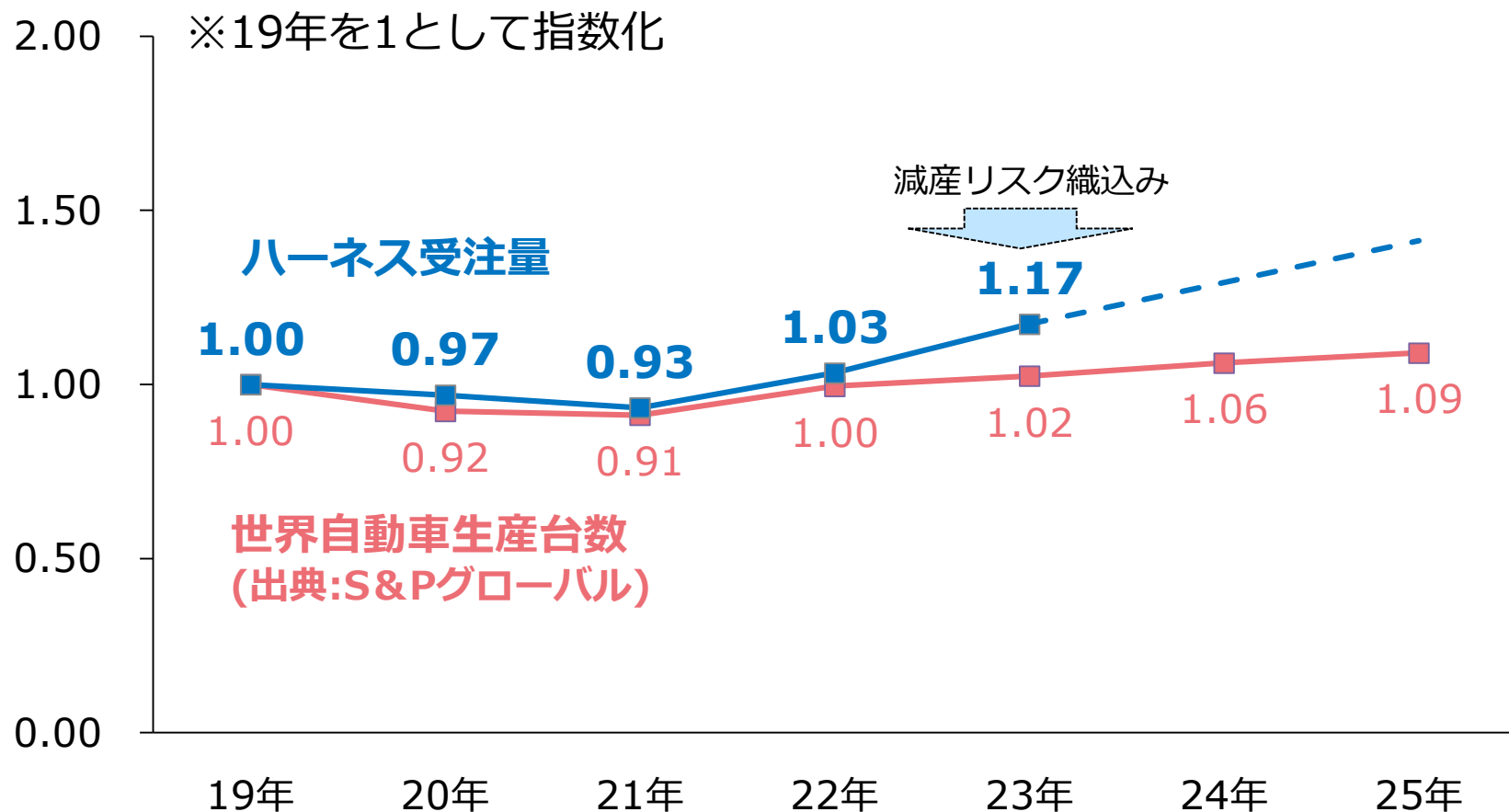
2025年度

売上高 : 4.4兆円
営業利益 : 2,500億円
税引前ROIC : 8%以上

2030年度
(2030ビジョン)

売上高 : 5兆円以上
税引前ROIC : 10%以上

(ご参考) ワイヤーハーネス受注量



ハーネス受注量は市場の伸びを上回るペースで増加の見通し

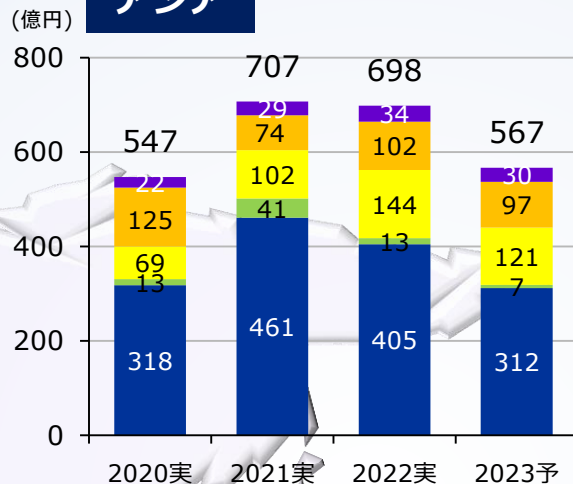
(ご参考) 地域別・セグメント別設備投資

2023年度の設備投資は 2,100億円の計画。(25中計は、3年累計 7,200億円)

欧州他



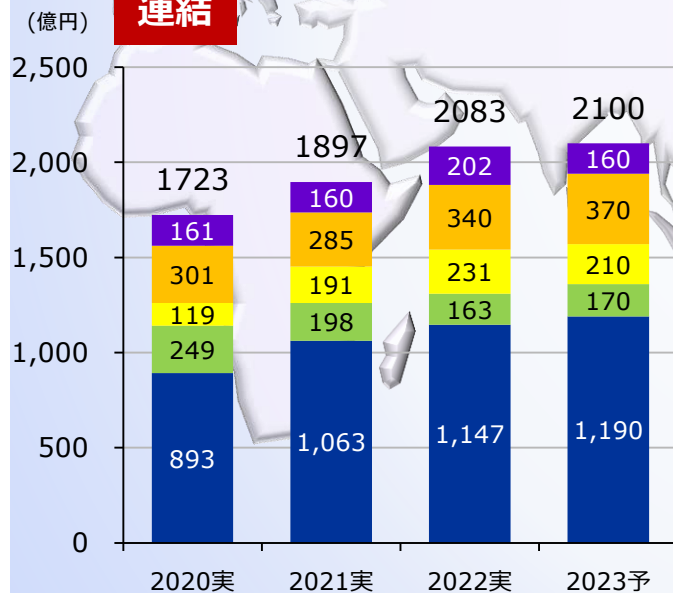
アジア



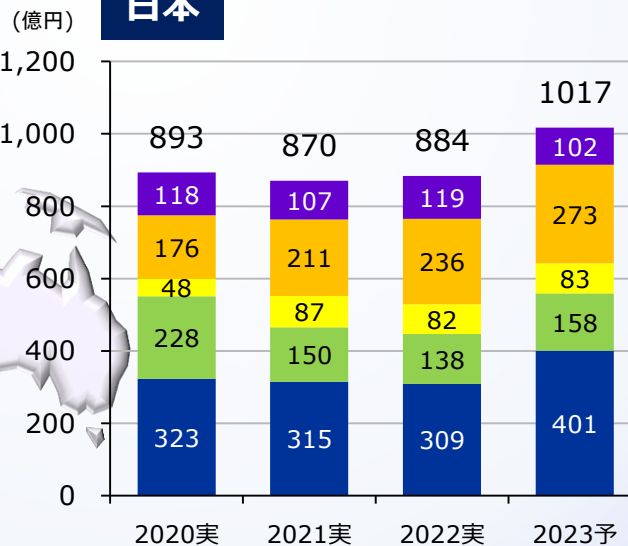
米州



連結



日本



産業素材

環境エネルギー

エレクトロニクス

情報通信

自動車

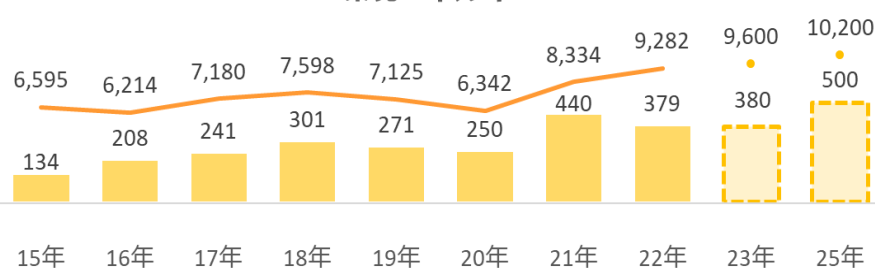
(ご参考)通期業績推移

折れ線:売上高 縦棒:営業利益 (単位:億円)

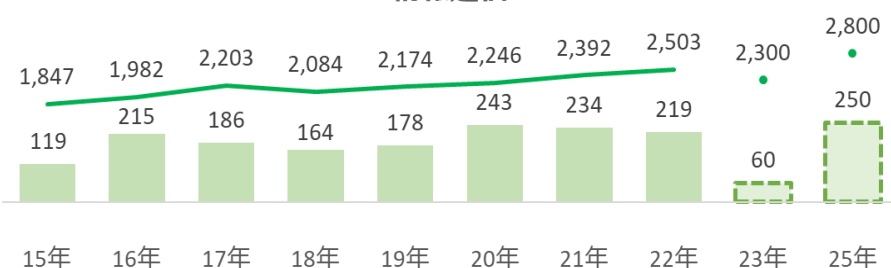
全社計



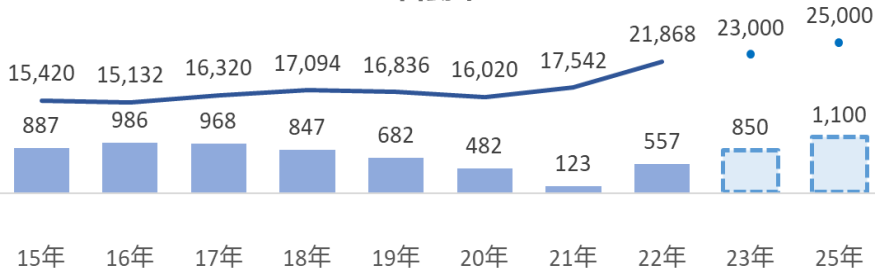
環境エネルギー



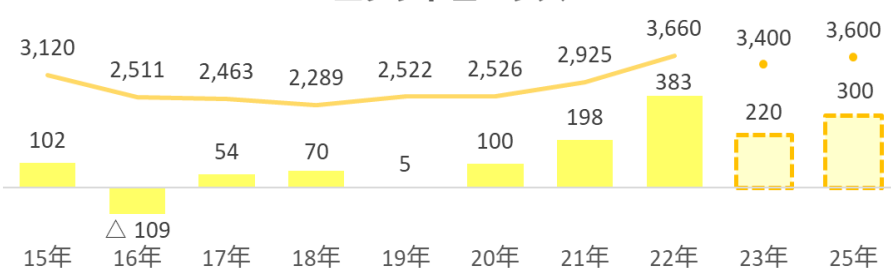
情報通信



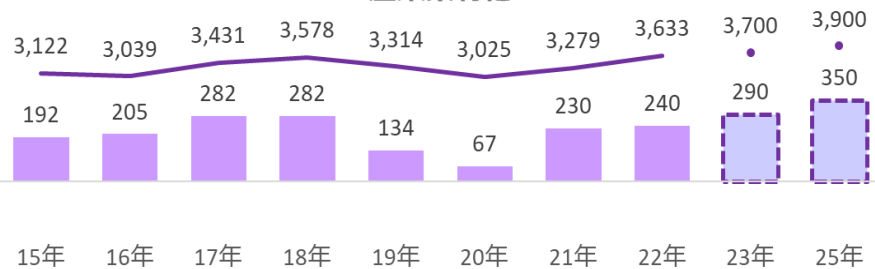
自動車



エレクトロニクス



産業素材他



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。



Connect with Innovation

<https://sumitomoelectric.com/jp/>